

【下妻会長】

1. 今年1年を振り返って

○本日は年末の慌ただしいところ、集まっていただきありがとうございます。今年1年間皆様方にはいろいろな形で大変ご協力を賜り、この場を持って御礼を申し上げたい。

<関西広域連合の発足と関空>

○最初に今年1年を振り返ってみて、やはり関西広域連合が12月1日に認可されたことが、一番のビッグニュースだと思っている。首長の互選によって、12月4日に井戸知事が連合長になられ、これから新しくスタートする。55年かかってやっとできたという感じだが、55年が長いのか短いのかというと、やはり長い気がする。しかし、明治維新以降とられてきた形に対して、地方分権にからむ大きなステップが一步踏み出せた。今の政権ができたときには、地域主権は「一丁目一番地の政策」だと聞いた覚えがあるが、その後あまり明確に出てきていない。その中で関西広域連合の設立が認可されたことについては、その間ご努力を賜った方々、先輩も含めて、また現在の首長の覚悟についても高く評価したい。我々経済界としても、できるだけの協力をしていきたい。あとは、早く連合が住民の方々に、連合になった結果こういうところが良くなったと実感できる施策を具現化していただくのが、まずは我々としては希望するところである。それぞれの府県が7つの業務について分担をしながら、連合議会の方向を関西一本で行うので、できるだけ早く住民の方々、あるいはそれぞれ参加する府県の方々が、理解できるようなメリットを具体的に見せていただけることに我々としては大きく期待したい。これから先、国がどれだけの税源、権限を委譲してくるか。その対策委員長は最も今アピール力の強い橋下知事がやるので、新聞を賑わしながら、少しずつでも権限の移譲が進むことを大きく期待したい。

また、今年の大きな出来事としては、新政権になって、関空が日本の二大ハブ空港の一つであることが明確に国交省の成長戦略の中に書き込まれ、それに向かって動き出したことは、ひとつ大きな進展だと思っている。また、国際コンテナ港湾についても、阪神港がいわゆる東京・横浜と合わせて指定されたことも、これから先の問題としては非常

に大きな出来事だと思っている。さらにこれが、近々設立される神戸埠頭と大阪埠頭の民営化と合併による一元化が、その政策と相まってこの阪神港が国際的基準によるコンテナ港として発展すると大きく期待できる素地はできたと思っている。もちろんフィーダーをどう集めるかという細かい問題はあるが、たまたまこの前航空燃料の減税問題が出てきた。フィーダーの一番大きな問題が国内フィーダー船、国内港湾船に対する燃料の税金が高いが、国際船は安いこと。その辺りのイコールフットイングを我々はこれから求めながら、阪神港が国際港として先々発展することを、経済界としても国に対してものを言っていきたい。

#### <今年の景気状況>

○関西の経済は大変懸念された今年1年だったわけだが、関西社会経済研究所（K I S E R）の調査した結果は、年度の見通しとして成長率は2.6%くらいで推移しそうだとなっている。国全体は4-6月期、7-9月期は3.9%とか4.5%という数字が出ているが、全体を見直すと全土としては3.0%くらいのプラスだ。その中で関西は2.6%。2011年度は、K I S E Rの予測結果では、1.6%くらいの成長は見込めるとなっている。新興国の成長はまだ大きく期待はされるが、ADBの予測によると、来年度はアジアについては若干減速して7.3%、今年は8.6%の成長であった。そして、中国の経済成長についてはアナザーストーリーだ。まだまだ関西を取り巻くアジアの特に新興国の経済成長は、かなり高い数字で推移すると見通せるのではないか。

#### 2. 民主党政権について

##### <民主党政権に対して>

○景況感調査で出てくるところは、来年の4-6月期くらいから、またゆるやかに上昇するだろうという期待感の強い、それぞれの企業のマインドである。非常に申し上げにくい、一番の景気に対する懸念は何かというと、第1位が「政府の安定」、「政府の動向」であるとアンケートの結果で出ている。従来は、政治に無関心という国が、だんだん政治に関心がある国になったと、ある意味成長した。

##### <2011年度税制改正大綱、来年度予算編成>

○また税制については、「ペイアズユーゴー」という言葉が最近出だして、何となく解った

ような、解らないような話になっている。今議論されている税制大綱は、なんとなくお母さんが夜なべして、つぎはぎしているという話であって、もう少し長期ロードマップという形で考えていただくことを政府には期待したい。特に菅総理は「雇用、雇用、雇用」と連呼して「雇用と成長」を重視する政策を徹底するとおっしゃったはずなので、新成長戦略で既に出ているものをいかに具体化するかを必死でやっていただきたい。

<COP16（国連気候変動枠組み条約締約国会議）結果について>

○COP16のカンクンでの議長取りまとめを見て、我々が一番懸念したのは、最後に日本が腰折れしてCOP3で決まった「京都議定書」の単純延長で終わりでは、ということであった。その辺は松本大臣をはじめ非常に軸を固めて、きっちり主張をされたことについて、我々としては敬意を表したい。最後の取りまとめの中にもあるが、新興国と称する巨大国の意見、あるいはアメリカの参加に対する考え方、昨年の鳩山前総理の国連での演説の中に25%、ただしうんぬんとあったが、今回はそのうんぬんのところを非常に強調されて、ああいう戦いをされたことについて、我々産業人としては、とりあえず胸をなでおろしたという感じだ。これからまたCOP17に向かって、いろいろな議論が出てくると思うが、今のCOP3の誓約期間が08-12年。13年以降どうなるかが今回の話題だった。今回示した軸足をくずさずに今後もやっていただきたい。全ての主要排出国が公平なルールで地球温暖化防止に向かうことが望ましいのは、我々としても反対することはないが、公平な参加を前提にしながら、国際的議論が進むことを強く期待している。25%は我々が期待していない時に出た話で、実証的な、国民的議論も進まない。今回のCOP16をベースに、時間をかけて国民的議論をもう少ししながら、方向性を集約する形をぜひ取っていただきたい。

○いずれにせよ、政府に対しては強いリーダーシップを持った総理のもとで、今日、明日の話ではなくて、長期ロードマップを作りながら、国民に日本の姿、行く道を明示いただきたい、というのが強い要請である。これから先、どう政局が動くか解らないが、現政権に対しては今後もきっちり要望していきたい。

【山口副会長】

○副会長として奈良を担当している。平城遷都1300年祭が無事成功理のうちに終了したこ

とは、厚く御礼申し上げます。奈良県が最初発表したときは、あの原っぱの中に人が来るのかと心配していた。私は近所に住んでいて、あの校区の小学校を出た。あの辺りは一面田んぼで、私たち子供のころの遊び場だった。それが近年、日本が歴史に関していろいろなことを考え出した。その頃から国が土地を買い上げて、ああいう格好に作った。そして朱雀門、大極殿が完成した。見て楽しいものでもないが、360万人という計画の1.5倍の方がおみえになり、大変うれしく思っている。また奈良県でも経済効果として、約1000億円近くあったと言っている。それなりに大きな寄与があった。来年これをどう繋いでいくかが奈良県に課せられた仕事である。いずれにしても関経連はじめ皆様のご支援で、いい催しができたと喜んでいる。

#### 【森下副会長】

○町田委員長と共同でタスクフォースをやってきた。11月9日に出した提言書は、来年度からスタートする第4期科学技術基本計画策定の骨格作りを総合科学技術会議がやっており、それに対する意見である。9日に高木文部科学大臣はじめ内閣府等々へ提言書を持って行った。

○提言書の内容は大きく2つある。一つは科学技術政策と産業政策を一体的に進めるということ。従来、科学技術政策は文部科学省が中心になって、アカデミックに進めてきた。世界の産業競争を考えると、とにかくイノベーションをいかに早く産業に結びつけ競争力をつけるかが大事なので、科学技術政策と産業政策を一本化すべきだと強く言っている。もうひとつは地域再生。東京への一極集中で地方が疲弊している問題を考えると、新たな産業も含めて地方を元気にしなければならない。地域の強み・特徴を活かして地域再生を図る。そのために産官学が連携していくべきだ。この2点が大きな柱である。

○建議先では提言を真摯に受け止めていただいた。特に高木大臣からは、文部科学省としても積極的に産業政策も含めて協力していくという、積極的な意見をいただいた。内閣府は、鳩山前総理のときは各府省の壁を取り払って一本化していくという方針が強かった。菅総理になって若干その要素が弱くなったが、全体をまとめておられる和田内閣府政務官からは積極的にまとめていくという話をいただいている。結果として、11月17日に総合科学技術会議から科学技術に関する基本政策の答申の原案が出たが、先ほど言

った2点については、かなり取り上げていただいている。私どもとして、提言してきた価値があった。また提言では、「絶滅危惧学科」という分野（土木工学、化学工学、冶金・金属工業、造船、原子力など）に学生が集まらないので、学科が廃止されているという問題があって、そこについて産業界がかなり問題意識を持っている、ということも述べてきた。これに対し、総合科学技術会議相澤議員からは、産業界としてどういう取組みをしてくれるか。むしろ学生が就職希望するときに就職口がないから、結局学生が希望しない。だから大学もそういった学科を廃止する。企業側、産業界がはっきりと宣言するなり、枠組みを作ってくれば、大学としても協力するという話があった。この点については、大学と産業界が、もう少し一緒になってどう取り組んだらいいかを議論しなければならぬということ、一つの宿題になった。これについては少し勉強を始めないといけない。

○政府が立てた基本政策の中には、科学技術政策や産業政策などの各政策を内閣府が中心となってまとめていく組織として科学技術イノベーション戦略本部を設けると書かれている。しかし各地域については、地域イノベーションを進めなさいとしか触れられていない。それについて我々は具体的に「地域イノベーション戦略協議会」を作って進めるべき、と提言している。特に関西は広域連合がスタートした。広域連合では、いわゆる行政事務と言われている分野、防災、観光などが中心となっているので、1年ほど行政事務を軌道に乗せるのが、広域連合としても一番大きな仕事だと思う。その次の段階で、広域連合に地域イノベーション戦略協議会を設けて、関西をまとめて調整していくのがいいだろう。我々としては、「産官学協働プラットフォーム」と言っているが、例えばIPS細胞なら京都大学が中心に、スマートグリッド関連・エネルギー関係はけいはんなが中心となって政府のお金をいただいて進める。医療関係は神戸、それらをまとめてテーマ毎にやっていく枠組みを「地域イノベーション戦略協議会」で調整していく。そして国の予算をいただくという枠組みが良いのではないかと提言している。具体的に取組んでいくのが、これからの課題。いずれにしても今回は、相当政府の方針の中に取り入れてもらったので、我々としては、タスクフォースのメンバーの皆様をはじめ、ご協力いただいた方々のご意見を反映できたことは良かったと思っている。

【松下副会長】

- 私からは、最近話題になっている「環太平洋経済連携協定（TPP）」をはじめとする日本の経済連携の推進について思うところを申し上げたい。
- まず、TPPについて、菅総理は交渉参加を考えたいと言ったが、11月9日に閣議決定した「包括的経済連携に関する基本方針」で、「交渉参加」ではなく「協議開始」と、当初の菅総理の目論見より腰が引けており、菅政権には、もう少し信念を持って進めてほしい。
- 今年に入り、わが国はペルーとインドとのEPAに合意した。日本が発効・締結したEPAは11となったが、EPA相手国との貿易額は、日本の貿易総額のわずか16%しかない。一方、韓国は7つのFTAを発効・締結しており、FTA相手国との貿易額は、韓国の貿易総額の36%を占めている。日本と同じ農業問題がある中、韓国では大統領がリーダーシップを持って米国やEUなどとのFTA交渉を推進・合意しており、韓国政府のしっかりした姿勢には敬意を表したい。
- 世界中で二国間、あるいは広域の自由貿易協定の締結が相次ぐ中、わが国としては、輸出および産業競争力が韓国などに劣後しないよう、主要貿易相手国である米国を含むTPPへの正式参加を早急に推し進めていただきたい。その際、EUを含め、主要な貿易・投資相手国・地域を中心に、できるところから同時並行的にEPA交渉を進めていく必要がある。
- 併せて、経済連携交渉の推進に当たっては、「農業分野の改革」や外国人の専門家や労働者の受入れをとまなう「ヒトの移動」に対応する国内規制改革と一体的に考えていく必要がある。私どもとしては、経済閣僚との懇談機会などをとらえ、繰り返し、また粘り強く、こうした施策の実行を訴えかけてまいりたい。
- なお一つ補足したい。先日、今日参加の新聞社からTPPについて取材を受けて、その後掲載された記事のなかで、私の意図と少し違ったニュアンスのところがあった。TPPについて、日本の国益を考えれば参加すべきであり、早く参加しないと日本を除いた国々で交渉が固まった場合、後からの参加だと難しい立場になるのではという話があり、当然TPP入りを急ぐべきだと思っている。民主党政権は腰砕けになりがちなので、強い姿勢で最初から交渉に入っていくかどうかについては懸念あり、と申し上げた。それ

に対して、今交渉に入らないと間に合わないのではないかとの質問があり、当然ながら早く交渉に入ってほしいけれども、日本が最初から入っていけなくてもそれでだめということにはならない、とお話した。日本はこのTPP域内で大きな貿易額を持っているし、日本を入れないのはTPP全体にとっても決してプラスではないので、時期を逃しても二度と入れないということではない、と申し上げた。その辺のニュアンスを、そんなに急がなくてもいい、と書かれた。これは私の意図と異なる。TPP入りは絶対に急ぐべきだ、しかしこの機会を逃したら絶対に入れないというわけではないと思う、ということだったので補足させていただいた。

以 上